

2024年12月23日

「県内世帯の消費動向アンケート」調査結果 家計支出の引き締め続く中、広がる“メリハリ”消費

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、静岡県内世帯を対象に、家計支出に関するアンケート調査を実施しましたので、その結果をお伝えします。なお、本調査は年に1度実施しているものです。

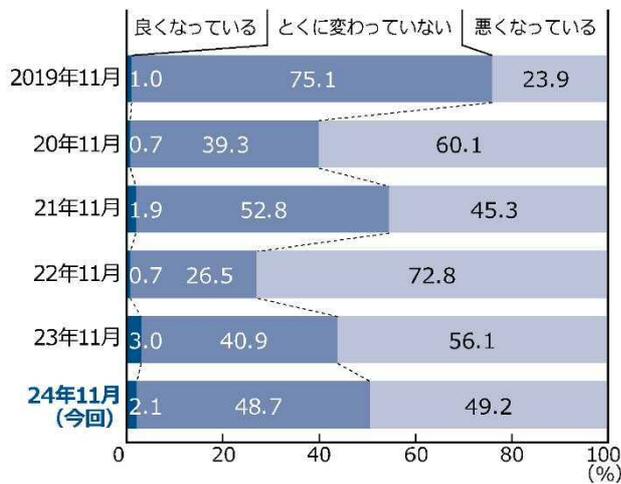
1. 県内世帯の景況感・満足度

景況感は緩やかながら回復の兆し 生活レベルの満足度は横ばい

○静岡県内世帯を対象に、最近の景気について尋ねたところ、「悪くなっている」が49.2%と約半数を占めた（**図表1**）。ただし、前回調査と比べると、「悪くなっている」は△6.9ポイント減少し、「とくに変わっていない」（48.7%）が+7.8ポイント増加しており、緩やかながら回復の兆しがみられる。

○世帯収入の満足度は△12.4と、依然として不満派（「不満」+「どちらかという不満」）の割合が多いが、前回調査から+5.4ポイント上昇し、2年連続で改善した（**図表2**）。一方、生活レベルの満足度は15.2と、前回調査からわずかに低下したものの、満足派が不満派を上回った。

図表1 最近の景気について



図表2 現在の生活レベルと世帯収入の満足度



注) 満足度は、「満足」+「どちらかという満足」のポイントから「不満」+「どちらかという不満」のポイントを差し引いて算出

〈調査概要〉

- ① 調査対象：静岡県内の家計を預かる方1,190名、回答者数1,052名（回収率88.4%）
- ② 調査方法：静岡銀行県内店舗の顧客に対して店頭または自宅で記入を依頼
- ③ 調査時点：2024年11月
- ④ 回答者の内訳：
 - 〈年齢別〉 20代（7.1%）、30代（13.9%）、40代（19.9%）、50代（43.3%）、60代以上（15.9%）
 - 〈世帯収入別〉 300万円未満（10.7%）、300万円以上500万円未満（13.4%）、500万円以上700万円未満（21.7%）、700万円以上900万円未満（16.3%）、900万円以上1,200万円未満（21.9%）、1,200万円以上（14.0%）、不明（2.0%）

本件のお問い合わせ先：吉田 衣里

2. 家計支出の動向

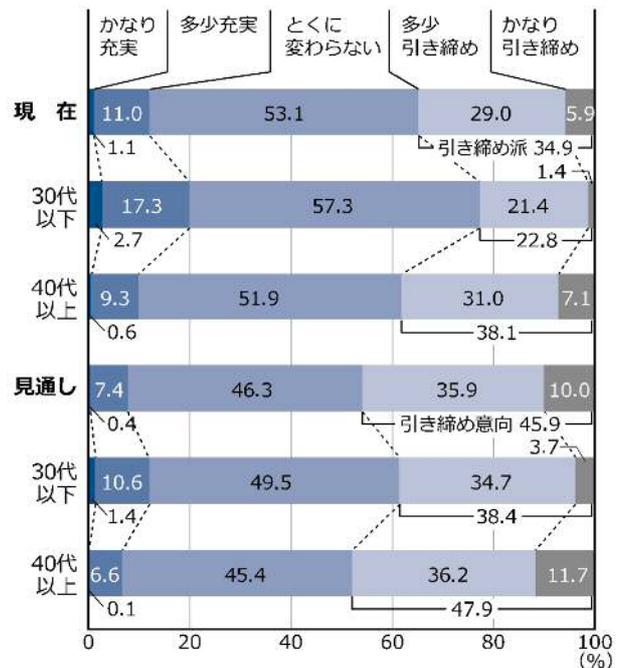
家計支出は中高年ほど引き締め意向強いが 余暇活動を充実させたい傾向も

○現在の家計支出を1年前と比較すると、「とくに変わらない」が53.1%と半数を占め、「多少引き締め」と「かなり引き締め」の“引き締め派”は34.9%となった（図表3）。

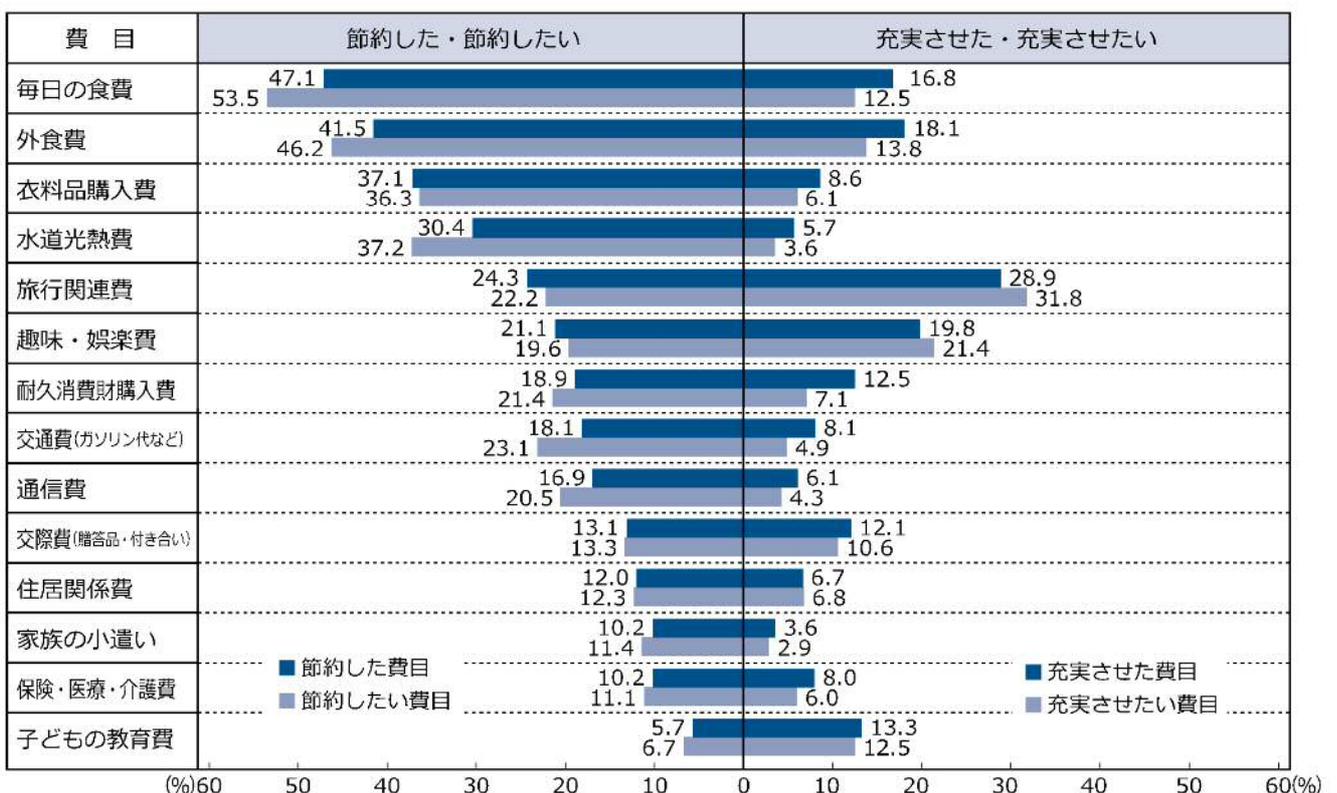
○今後1年間の支出の見通しは、“引き締め意向”が45.9%と現在から+11.0ポイント増加し、すべての世代が節約志向を強める。現在の賃上げ幅では物価上昇に追いつかず、家計を守るために支出を引き締めざるを得ない状況が推察できる。

○今後1年間で“節約したい”費目は「毎日の食費」（53.5%）や「外食費」（46.2%）、「水道光熱費」（37.2%）など、日常生活に欠かせない支出が並ぶ（図表4）。一方、“充実させたい”費目は「旅行関連費」（31.8%）や「趣味・娯楽費」（21.4%）、「外食費」（13.8%）が上位となった。生活に必需的な費目を節約しつつ、余暇時間を充実させようとする世帯の意向がみえる。

図表3 1年前と比較した現在と今後1年間の家計支出の見通し



図表4 過去1年間に支出を節約（充実）してきた項目、今後節約（充実）したい項目



○今後1年間の「旅行関連費」や「趣味・娯楽費」の充実意向をみると、すべての世代で充実が節約を上回った(図表5)。とくに、60代以上では、充実から節約を引いた差がプラスに転じるため、充実意向が高まり、余暇活動が活発になると予想される。

3. 節約のために実施した購入方法

ネットによる節約は浸透 中古品などの購入には慎重

○過去1年間で実施した購入方法をみると、食品・日用品、衣料品、耐久消費財、レジャー(旅行)の4品目では、「ネットで安い商品(プラン)を探して買う(出かける)」がいずれも40%を超えた(図表6)。コロナ禍でインターネットを介したサービスの提供が増え、商品・サービスの比較、購入がしやすくなったことが大きな要因と考えられる。

○中古品やリサイクル品の購入については、以前よりも利用しやすくなっているが、衣料品、耐久消費財ともに10%を下回った。とくに、40~60代は、耐久消費財の中古品に対する抵抗感が強いようだ。

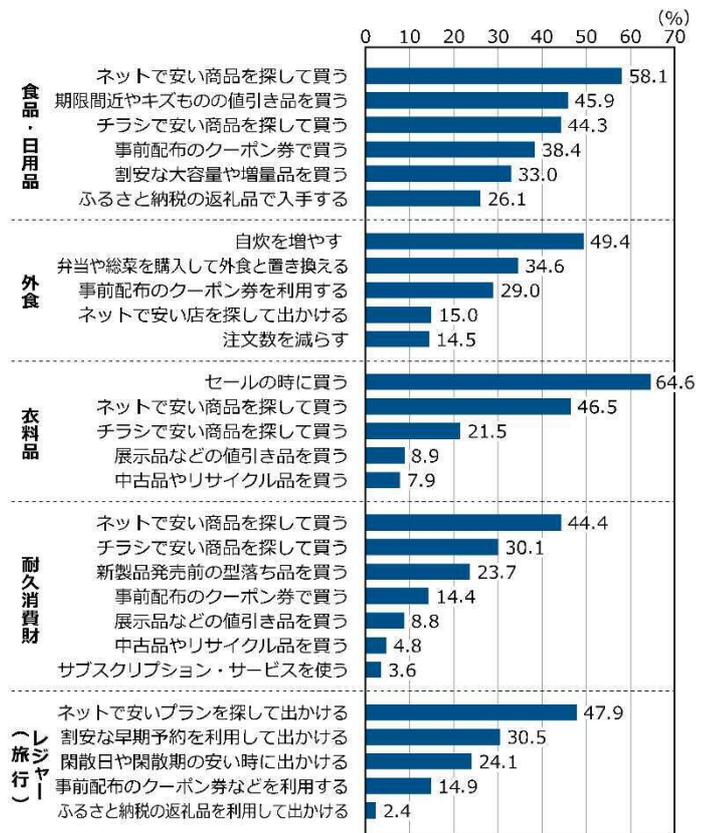
図表5 余暇活動の節約と充実の状況

	過去1年間			今後1年間		
	充実	節約	差 (充実-節約)	充実	節約	差 (充実-節約)
全体	37.5	31.9	5.6	39.4	28.6	10.8
20代	50.7	30.7	20.0	38.7	30.7	8.0
30代	43.8	28.1	15.7	37.0	30.8	6.2
40代	37.8	36.4	1.4	37.8	32.5	5.3
50代	35.8	29.9	5.9	40.4	25.3	15.1
60代以上	30.5	35.9	△5.4	41.3	29.9	11.4

※図表9「旅行関連費」もしくは「趣味・娯楽費」を選択した世帯の割合を算出

※網掛けは、充実と節約の差が10ポイント以上を示す

図表6 節約のために過去1年間で実施した購入方法



4. まとめ

○物価高を背景に節約志向が続く中で、節約と充実を使い分けて生活レベルの満足度を維持している様子が見えてきた。とくに、日常の支出を節約し、余暇的な支出を充実させることで、生活にメリハリをつける消費スタイルは特徴の1つといえる。

○財布の紐は堅い状況が続くが、実際にはちょっとした贅沢消費が行われており、こうした動きを丁寧に取り込み、購入意欲を喚起することで、消費活動は今よりも活発になるだろう。